

学生教職支援センターは、あなたの教職に就く夢を叶えます！

# 未来への挑戦



宮崎国際大学 学生教職支援センター通信 2023年9月29日発行

学生教職支援センターは、教育学部と国際教養学部教職課程履修生を対象に、学生の教職に就く夢を叶えるために保育所や幼稚園・小学校や中学校の教育実習等のお世話と教員採用選考試験対策を実施しています。

特に、学校現場で教員を目指す学生は、教員採用選考試験という乗り越えなければならない大きな壁がそびえたっています。学生教職支援センターでは、その壁を乗り越える支援策として1年生から4年生を対象として、毎週月曜日3限目に90分間の学内対策講座を4年間で合計90回実施しています。

## 今号の特集記事 / 教員採用選考試験合格を目指して

### 教員採用選考試験合格を目指す特別対策講座

公立学校教員採用選考試験は、一次選考試験と二次選考試験があります。一次選考試験では「教職教養」と「専門教養」という教職に関する知識を問う問題が出題されます。二次選考試験では「模擬授業」「個人面接」「グループワーク」など、将来の教員としての資質を問う問題が出題されます。

本学では、教員採用試験対策として、採用試験を控えた3年生から4年生を対象にして、教育現場における実務経験豊かな4名の外部講師による「特別対策講座」を実施しています。「特別対策講座」は、3年生の夏休み期間中から4年生の採用試験前まで毎週実施しています。

特別対策講座を指導する4名の外部講師の先生方は、元小学校の校長先生であり、本県教育委員会事務局職員として、長年のあいだ県内の小中学校の指導をしてきた教職経験豊富な先生方です。先生方は特別対策講座を長期間にわたって指導しており、本県の教員採用試験の問題を分析し、教員採用試験全員合格を目指して、効率的で効果的、そして非常に丁寧な指導をされています。



金丸光臣先生



右松照央先生



湯地正隆先生



古賀正樹先生



個別指導の様子



遠隔による模擬授業指導



対面による模擬授業の様子

## 令和5年度公立学校教員採用試験一次試験の結果

令和5年度公立学校教員採用選考試験では、小学校教員を目指して宮崎県をはじめ大分県、熊本県、鹿児島県、千葉県の採用試験を教育学部4年生24名が受験しました。また、中学校英語教員を目指して、宮崎県、福岡県の採用試験を10名が受験しました。結果は小学校の採用試験を受験した24名全員が一次試験に合格し、中学校は3名が一次試験に合格しました。小・中併せて27名が8月後半から9月上旬にかけてそれぞれの受験県において無事に二次試験を終了することができました。二次試験終了後に終了報告を受けましたが、全ての学生が二次試験に手ごたえを感じているようでした。27名全員の合格を祈っているところです。

### 一次試験の結果

小学校教員受験者24名中24名全員合格

宮崎県17名・大分県4名・熊本県1名・鹿児島県1名・千葉県1名

中学校教員(英語)受験者10名中3名合格

宮崎県2名・福岡県1名

### 二次試験の結果(9月25日現在)

小学校教員受験者大分県4名全員合格



宮崎国際大学  
マスコットキャラクター

## 一次試験合格者の声

### 宮崎県 小学校

教育学部 4年 三輪あいな

私は特別選考により一次試験は免除であったため、今回は二次試験対策と採用試験を終えての感想を伝えます。二次試験には個人面接、英会話、模擬授業、グループワークがありますが、私は教材研究から始めました。題材について深く知ることで、どんな質問に対しても自信を持って答えることができるようにしました。英会話では、過去に出題されていた問題の回答作りは言うに及ばず、高学年の教科書の題材からの準備も行いました。個人面接では、先輩方の報告書から過去の質問をまとめ回答作りを行いました。また、教職教養や指導要領についても答えることができるように勉強をしました。グループワークでは、Chat GPTを使用してデータや施策を調べ、学生同士で練習を重ねました。採用試験を受けて、準備や対策の重要さをとても実感しました。自信を持って受験するには自分の頑張りが一番です。最後まで負けずに頑張ってください！！

### 鹿児島県 小学校

教育学部 4年 田原太陽

8月から教員採用試験二次試験の対策講座が始まり、私は回数を重ねるうちに個人面接やグループ討議に自信ができました。7月頃の私は、試験官役の質問に対して早口になったり、端的に話せなかったりして、自信があるとは言えませんでした。また、グループ討議についても討議の進め方やまとめ方を最初は難しいと感じていました。学内の先生方の指導の下、過去問を中心に自分でノートを作成して問答集を作成しました。対策講座だけでなく、時間がある時には先生方に面接指導を依頼し、回数を重ねるうちに上手く答えられるようになり、自信につながりました。グループ討議については、先生方の指導に加え、学友などをお願いをして毎日練習したり、グループ討議の動画を視聴したりして進め方やまとめ方を学びました。試験当日はこれまでの練習成果を十分に生かして自信をもって臨むことができました。

## 千葉県 小学校

教育学部 4年 野寄咲希

千葉県の一次試験の問題の傾向は宮崎県と違い、1人で頑張ることも多くあったため、一次試験に合格して、これまでやってきたことが報われた気がしました。合格後は、二次試験に向けてすぐに対策を始めました。模擬授業と面接はたくさんの友人に手伝ってもらい、みんなで高みを目指すことができました。また先生方からの熱いご指導のおかげで試験対策としてだけでなく、教師を目指す1人としてすごく成長できた気がします。二次試験も無事に終わり、結果発表まで不安が残る一方、残り少ない大学生生活を充実させながら、来年の4月から堂々と教壇に立てるよう準備していきたいです。

## 熊本県 小学校

教育学部 4年 柿原まなみ

私は二次試験に向けた準備をするにあたり、模擬授業・個人面接は対策講座に参加して対策し、論述は講座外の時間で対策をしました。対策講座では、外部講師の先生方からご指導いただいたことで、回数を重ねるにつれてより良い模擬授業や面接をすることができるようになると同時に、自信にもつながりました。また、他の学生の実演を見て参考になる点をメモしておき、自分の模擬授業・面接に取り入れていました。論述に関しては、過去数年分の問題を解いて時間配分感覚を掴むことに加え、昨年熊本県を受験された先輩に論述のポイントを教えていただいたり、自分が選択する教科を専門としている先生に添削指導をしていただいたりしました。二次試験に向けて十分に準備したことで、試験当日には落ち着いて受験することができました。

## 大分県 小学校

※二次試験合格(大分県の教員として内定) 教育学部 4年 黒木真李

私は、教員採用試験一次試験の勉強をする上で「習慣」を心がけていました。一日に長時間勉強して、それをやる日とやらない日があるよりも、短時間を毎日続けることの方が知識が定着すると思い、実践しました。大学の対策講座を終えて、家や図書館で毎日4時間勉強をしました。毎日短時間の勉強を習慣づけたことで、勉強の辛さや嫌悪感がなくなり、採用試験の勉強を頑張ることができたと思います。一次試験の合格が分かってからは、二次試験に向けての対策が本格的にスタートしましたが、面接がとても苦手なので不安でいっぱいでした。しかし、多くの先生方が試験日まで毎日のように模擬授業や面接の指導をしてくださり、二次試験の本番は自信をもって挑むことができました。採用試験に合格するために対策をたくさんしてくださった先生方には感謝の思いでいっぱいです。

## 宮崎県 中学校(英語)

国際教養学部 4年 後藤祥太

私は宮崎県の教員採用試験の一次、二次試験を終え、清々しい気持ちです。二次試験の当日までは、不安や緊張に押しつぶされそうになったり、試験から逃げたい気持ちと葛藤したりする日々でしたが、周囲の支えや、一次試験を乗り切ったという自信でどうにか心をつなぎ留めることができました。また、二次試験は一次試験にも増して、人間的資質を問われる試験ですので、対策では神経をすり減らすようなことが多かったです。来年教員採用試験を受験する方々には、ぜひ気持ちを切らさずに最後まで戦い抜いてほしいと思います。対策講座で指導してくださった先生方や、保護者、応援してくれた友人など、多くの人の助けのおかげで、無事に教員採用試験を受験し、自分の持つすべてを出し切ることができましたので、感謝の気持ちでいっぱいです。



## 教育・保育実習の概要紹介

将来の教員や保育者を目指すためには、大学での学問的な学びと教育・保育現場での具体的な実践を学ぶ必要があります。本学では、保育園や施設において実習を行う「保育実習」と幼稚園や小学校・中学校において実習を行う「教育実習」を2年生から計画的に実施しています。

実習	時期	実習先	期間
保育実習 I a(保育園)	2年後期	県内の保育園	10日間
介護等体験	3年前期	県立支援学校 県内福祉施設	2日間 5日間
保育実習 I b(施設)	3年前期	県内の福祉施設	10日間
基本実習(幼稚園)	3年前期	附属幼稚園	4日間
教育実習(小学校)	3年後期	県内の小学校	20日間
教育実習(幼稚園)	3年後期	県内の幼稚園	20日間
教育実習(中学校)	3年後期	県内の中学校	15日間
保育実習 II	4年前期	県内の保育園	10日間

教育現場や保育現場と福祉現場での様々な実習を通して、学生は大学での学びを実感するとともに将来の保育者や教員への志望を強く考えるようになります。特に、本学園には附属幼稚園が2園あり充実した実習が可能です。なお、学校現場や保育所などについては、県内の学校や保育施設で実習を行います。

### 宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会主催事業への参加

本学卒業後に教員として勤務する学生にとって、大学4年間で学校現場を知る機会は教育実習の機会のみとなりますが、学校現場での具体的な実践経験や学校教育を深く学ぶ体験が必要と考え、宮崎県教育委員会や宮崎市教育委員会が主催する事業へも積極的に参加しています。

#### ◆ スクールトライアル事業（宮崎県教育委員会主催事業）

教育現場での3日間程度の学校体験を通して「教員の業務に対する理解や実際の学校現場での子どもとのコミュニケーションを図る」ことを目的としています。学校体験としては、職員朝会・授業・給食・諸会議・研修・部活動などを観察することが主な目的となります。

#### ◆ 特別支援教育学生ボランティア事業（宮崎市教育委員会主催事業）

障がいのある児童生徒への支援を充実させるとともに学生ボランティアの資質向上を図るために、本学の教員志望の学生を「特別支援教育学生ボランティア」として、宮崎市内の小中学校に派遣しています。活動内容としては、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対する学習補助や特別支援学級や通級指導教室での学習補助を担当します。

#### ◆ ひなた教師塾（宮崎県教育委員会主催事業）

宮崎県の教員を目指す大学生に対して、講義・演習などの実践的な講座を通して教員としての基本姿勢や授業づくりなどの基本と教育に対する知見を学ぶ自主研修会を宮崎県教育研修センターが実施しています。8月から3月まで行われる年間8回の講座では、学習指導や学級経営・模擬授業・生徒指導など、県教育研修センターの指導主事等から学びます。